



## Index

### トピック ... P2

1月25日に開催されました、流通4団体合同の「流通 BMS 普及推進説明会」（東京）の様態を紹介しています。

### 協議会の活動紹介 ... P4

3月15日に東京で開催予定の「流通 BMS 導入事例セミナー」のプログラム、フォーラム&ソリューション EXPO の開催結果を報告しています。

### シリーズ 業界のキーマンに聞く ... P7

日本チェーンストア協会、流通 BMS プロジェクトの角田吉隆座長に業界の最新動向や情報化、ユニーの情報システムについてお聞きしました。

### 関連情報紹介 ... P10

製・配・販連携協議会による流通 BMS 導入・拡大計画の公表、前運営委員長の稲垣氏表彰について紹介しています。

### キーワード解説 ... P11

今回は「流通 BMS と商標登録」について解説しています。

### 流通 BMS 協議会会員 ... P12

### 流通 BMS 導入(予定)企業 ... P14

### ロゴマーク使用許諾製品 ... P14

### 流通 EDI 入門講座/流通 BMS 講座 ... P15

### 入門講座（バーコード、電子タグ） ... P16

### 編集後記 ... P17

## 流通4団体合同「流通 BMS 普及推進説明会」開催される 会員小売業 88 名（62 社）が来場

流通4団体（※1）は昨年、会員企業が容易に、低コストで EDI 取引を実現できるよう、流通 BMS を利用した共通インフラ「スーパーマーケットクラウド EDI サービス（略称：スマクラ）」を本年から開始することを発表しましたが、その紹介を兼ねた「流通 BMS 普及推進説明会」を1月25日（水）午後、東京・港区で開催しました。

※1 日本スーパーマーケット協会、オール日本スーパーマーケット協会、一般社団法人新日本スーパーマーケット協会、一般社団法人日本ボランタリーチェーン協会

内容は下表プログラムのとおり、主催者を代表して日本スーパーマーケット協会の大塚専務より、なぜ今、流通 BMS の導入を検討すべきなのかについて説明がなされた後、当協議会の坂本から、流通 BMS の制定経緯、標準化の内容と効果、普及状況、今後の展望などについて説明しました。

その後は、協会事務局の篠原氏による「スマクラ」の紹介を挟んで、サミットの長尾マネジャー、ヤオコーの神藤部長からそれぞれの流通 BMS 導入事例紹介が行われました。長尾氏は「製配販一体の標準化取組みに貢献し、お取引先と協力して社会的責任を果たす」と、また神藤氏は「流通 BMS サービスを導入し、共用型のスマクラを利用することでコストダウンした」と流通 BMS の意義を熱く語っていました。

最後に、経済産業省・流通政策課の妹尾課長補佐から、来年度の補助事業として8億円が計上された「ライフライン物資供給網強靱化実証事業」（※2）の説明がありました。

※2 小売業・卸売業・製造業等から、加工食品や日用品等の販売データ（POS データ）、在庫データ、生産データ等を収集・整理し、非常時には政府・自治体・消費者に対して各種情報を提供し、平常時には、メーカー・卸売業・小売業による最適な生産・在庫管理・調達を可能にする基盤システムの構築事業

流通4団体合同「流通 BMS 普及推進説明会」プログラム

No	時間	テーマ	講師
1	14:00～ 14:20	流通 BMS 普及促進事業について	日本スーパーマーケット協会 専務理事 大塚 明 氏
2	14:20～ 14:35	流通 BMS の概要と普及状況	(財)流通システム開発センター 研究開発部長 坂本 尚登
3	14:35～ 15:15	事業基盤の強化と流通 BMS の導入について	サミット(株) 情報システム部マネジャー 長尾 建 氏
4	15:15～ 15:30	協会の流通 BMS 普及推進【スマクラ】の取組みに関して	日本スーパーマーケット協会 流通推進部長 篠原 豊 氏
5	15:50～ 16:30	流通 BMS 導入メリットと将来の活用戦略	(株)ヤオコー 営業企画部 システム管理担当部長 神藤 信弘 氏
6	16:30～ 16:45	消費財サプライチェーンに関する大規模災害時の課題と今後の取り組み	経済産業省 商務流通グループ 流通政策課 課長補佐 妹尾 善多 氏
7	16:45～ 17:00	質疑応答	
8	17:00～ 17:10	流通 BMS の意義	農林水産省 食料産業局 食品小売サービス課 課長補佐 齋藤 勇一 氏

今回の説明会の対象は、4団体の通常会員（小売業）限定でしたが、食品スーパーを中心に62社から88名の小売業が参加、その関心の高さを示していました。その他、会場には多数のマスコミ関係者も詰めかけ、終了後、講師に取材が行われていました。

流通4団体では東京に続いて、2月（2/29）に名古屋、3月に福岡、4月に大阪、5月に広島で本説明会の開催を計画しているほか、6月以降、仙台、札幌での開催を予定しています。



流通 BMS のロゴマークをバックに集合した講師陣  
前列左から神藤氏、大塚氏、坂本  
後列左から妹尾氏、長尾氏、篠原氏



盛況の会場風景





## 「流通 BMS 2011 年度 導入事例セミナー」開催 3月15日（木）、ベルサール神田で

本協議会主催の「導入事例セミナー」を3月15日（木）13時～17時に東京・千代田区のベルサール神田2Fホールで開催します。

昨年から流通 BMS の本格展開を表明する大手小売業が相次いだこともあって、流通 BMS の新規導入を検討する小売業や卸・メーカーが急増しており、事例紹介を求める声が多く寄せられています。流通 BMS 協議会ではそういったご要望にお応じて、これから導入を検討される企業に対し

て導入判断の有益な情報を提供するための“導入事例セミナー”を開催します。

会場では、併設で流通 BMS のロゴマーク使用許諾済製品・サービスを持つ企業 19 社のカタログの展示・配付スペースを設ける予定です。

お申し込み方法は、流通 BMS 協議会のホームページなどで告知いたします。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>


（流通ビジネスメッセージ掲載）

# みんなで広げる流通 BMS

## 流通 BMS<sup>®</sup> 導入事例セミナー

- 事例で学ぼう！ 使い方・活かし方 -

受講料無料!



日時 2012年 **3月15日** (木) 13:10～17:10 (受付開始：12:30)

**プログラム** (予定) ●定員 300名

13:10 ご挨拶	<b>流通 BMS の普及状況と今後の普及拡大に向けて</b> ●流通 BMS 協議会 普及推進部会長 (オール日本スーパーマーケット協会 総務部長 兼 経営企画グループ マネージャー) <b>中村 伸一郎 様</b>
<b>&lt;導入企業の事例発表&gt;</b>	
13:30 導入事例 1	●伊藤忠食品株式会社 情報システム本部 副本部長 <b>竹腰 雅一 様</b> <div style="float: right; border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">酒類・食品卸売業</div>
14:10 (20分休憩)	
14:30 導入事例 2	●株式会社マツヤ 財務本部 事務管理部 部長 <b>中澤 孝夫 様</b> <div style="float: right; border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">食品スーパー</div>
15:10 (20分休憩)	
15:30 導入事例 3	●株式会社山星屋 情報システム部 情報企画課 課長代理 <b>古田 健太郎 様</b> <div style="float: right; border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">菓子卸売業</div>
16:10 (20分休憩)	
16:30 導入事例 4	●サミット株式会社 情報システム部 マネージャー <b>長尾 建 様</b> <div style="float: right; border: 1px solid #ccc; padding: 2px;">食品スーパー</div>
17:10 (終了)	

※プログラム、講師は、予告無く変更となる場合があります。予めご了承下さい。



## 「流通BMSフォーラム&ソリューション EXPO2011」 実施報告

昨年11月16日（水）に開催した「流通BMSフォーラム&ソリューション EXPO2011」に関する来場者、出展社から提出頂いたアンケート結果について報告する。

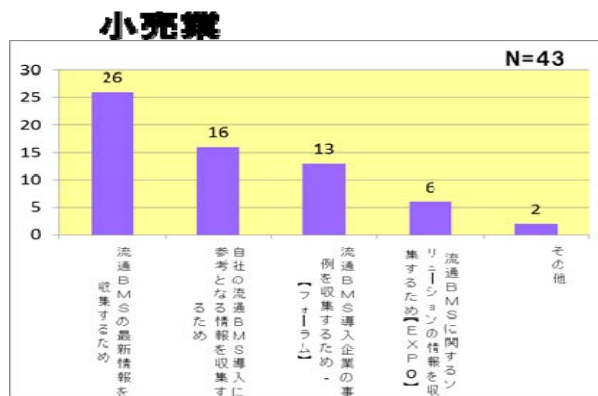
### I. 来場者について

「流通BMSフォーラム&ソリューション EXPO2011」の来場者総数は662名であった。このうち、「流通BMSフォーラム2011」へは561名、「流通BMSソリューション EXPO2011」へは581名の参加があった。

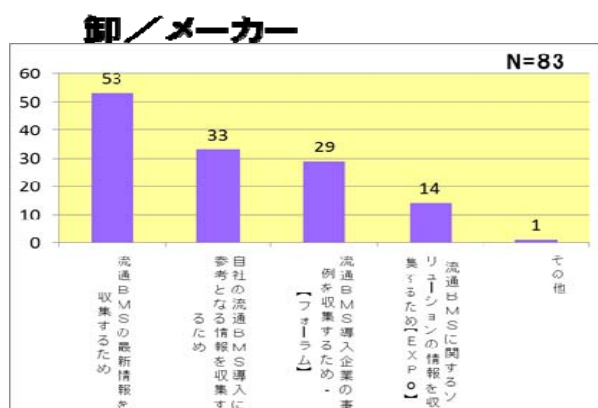
来場者の業種別属性は、過半数が流通BMSの製品やサービスを提供する側のITベンダーであり、実際に流通BMSを利用する小売業や卸/メーカーは30%強と言う結果となった。

来場目的は、昨年と同様で流通BMSに関する情報収集を選択された方が70%以上で、小売業、卸/メーカーの来場者は「自社の流通BMS導入に参考となる情報を収集するため」「流通BMS導入企業の事例を収集するため」の比重が、昨年よりもやや低くなってはいるが、全体および他業界よりも高く、引き続き実際の導入に向けての具体的な情報や導入事例に関する関心の高さが伺える。（図表1、2） ※本年のアンケート回収率は、昨年を大幅に下回り51.4%であった。

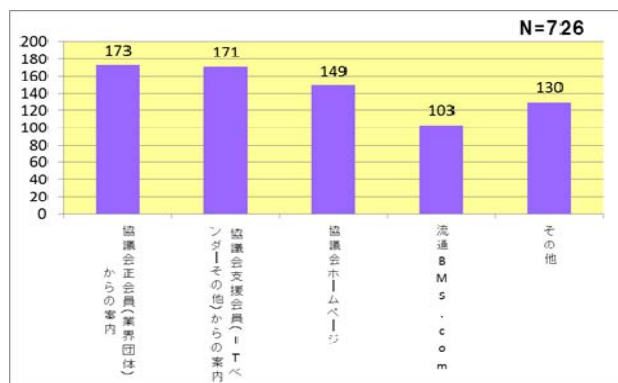
また、来場者がどこでイベントの存在を知ったかという質問に対しては、「協議会正会員（業界団体）からの案内」と「協議会支援会員（ITベンダーその他）からの案内」が、ほぼ同数で、正会員を通しての案内が効果的であることに加え、ITベンダーが積極的なビジネス展開を行っていることがわかる。（図表3）



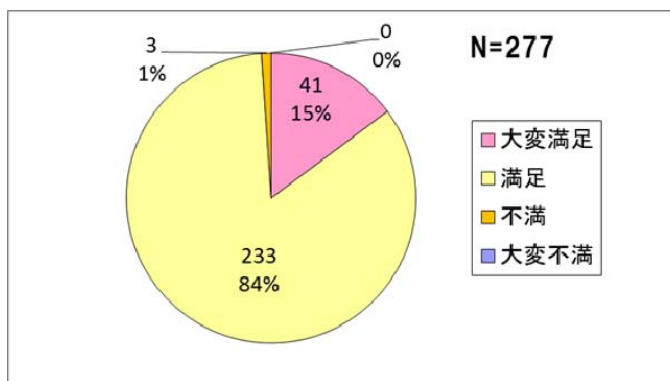
図表1 来場目的(小売業)



図表2 来場目的(卸/メーカー)



図表3 イベントの認知方法(全体)



図表4 流通BMSフォーラム2011(全体)

### II. 流通BMSフォーラム2011

「流通BMSフォーラム2011」は、99%の参加者が「大変満足」「満足」と回答しており、昨年度以上に高い評価を得ている（図表4）。

各セッションとも満足度が高く、（株）高島屋の津田様の講演（セッション2）については、「現



状の対比や課題提起が自社に置き換えて考える上で非常に参考になった。」、コメリグループ（株）ビット・エイの小林様の講演（セッション3）については、「導入に際してのコストパフォーマンス等の細かな部分について具体例があり、大いに参考になった」、イオンアイビス（株）の北澤様の講演（セッション5）については、「流通BMSをイオングループとして積極的に進めていく姿勢や、実際導入する際の組織の体制作りの重要性が認識できた。」などの意見が多く、大変好評であった。

これは、主たる来場目的である具体的な情報収集に合致した講演内容であったためと考えられ、小売業や卸／メーカーが自社の導入に向けた関心の高さや前向きな情報収集の姿勢をうかがい知ることができる。

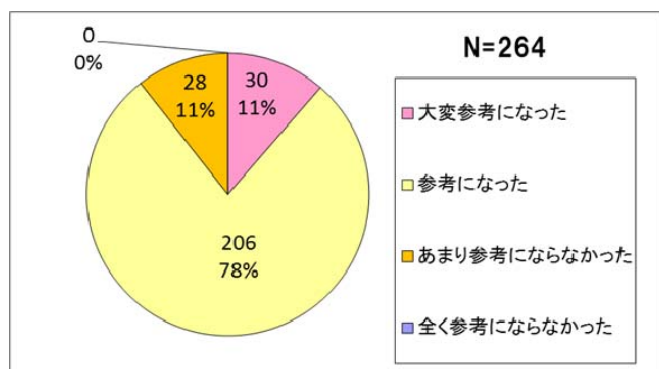
また、今回は金融業界におけるXMLの標準化について、日本銀行決済機構局の森様に講演（セッション4）頂き、受講者からは「新たな分野への、EDI標準の拡大の可能性を理解できたとともに、今後の連携に期待したい」という意見を頂いた。

今後の流通BMSの業種・業態を越えた普及拡大が、さらなる流通BMS普及の追い風となる事が期待されているのではないかとと思われる。

### Ⅲ. 流通BMSソリューションEXPO2011

「流通BMSソリューションEXPO2011」は、90%近くの参加者が「大変参考になった」「参考になった」と回答している（図表5）。

今年度は、昨年度から2ポイントの上昇と、ほぼ平行線であった。これは、多くのITベンダー



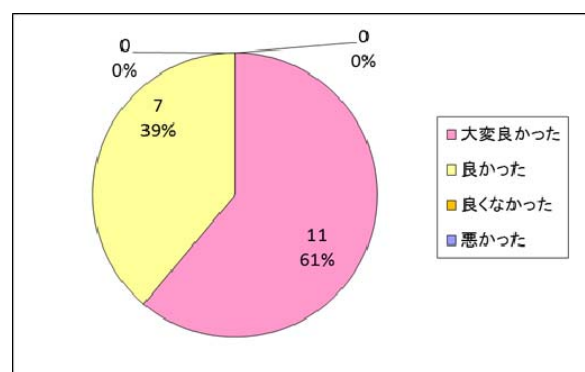
図表5 流通BMSソリューション2011(全体)

が日頃から積極的な活動をされ、流通BMSへの関心が定着してきたためと推察している。

今年度は25社の支援会員が出展し、新規出展は5社と昨年度よりは増加したが、展示会の特性上、個別の出展社が展示するソリューションの新規性に欠けることはやむをえないため、このような結果となったのではないかと考える。

今年度は、DVD上映を追加し、展示内容の工夫を行ったが、次年度はよりユーザ企業にとって導入の一助となる内容も考えていく予定である。

また、出展社へのアンケート調査からは、来場者が増加し、流通BMS製品・サービスのアピール、顧客へのアプローチならびにエンドユーザの声を聴くことができる場として、昨年同様の高い評価を得ている（図表6）。



図表6 出展社アンケート(出展効果)

◇ ◇ ◇

「流通BMSフォーラム&ソリューションEXPO」は、今回のアンケート調査を参考に、来場者、出展社ともより満足度の高いイベントとして、次年度も[2012年11月14日\(水\)](#)に継続開催を予定している。より多くの来場者、出展社が参加し成功裏に開催できるよう、事務局も知恵を絞って企画、開催準備を実施していくので、協議会の正・支援会員各位の相変わらぬご協力をお願いします。



### 第5回 チェーンストア業界 ネットスーパーでの利用を想定 した商品画像の標準化を検討

日本チェーンストア協会 ICT 委員会  
流通 BMS プロジェクト座長  
(ユニー株式会社 執行役員  
営業統括本部 IT 物流部長)

**角 田 吉 隆 氏**  
かくた よしたか



流通 BMS 導入宣言書に従い、ユニーでは 2014 年 2 月に約 800 の取引先が流通 BMS を導入するという積極的な導入・拡大計画を立てています。

執行役員の角田氏は流通 BMS の検討が始まった当初から標準化に参加され、経済産業省事業の成果報告会や流通 BMS 協議会の普及説明会など数多くの場で標準化の意義やユニーにおける流通 BMS 導入事例をご紹介されています。

一まず、震災の影響を教えてください。

**角田** 3.11 の震災の影響で BCM、BCP(注 1) が従来とは異なってきています。システム的にも物流的にも「想定外」という言葉があってはならない状況になりました。これまでではどちらかという社会インフラは殆ど止まらない、という前提がある程度担保出来、コンピュータさえ動けばどうにかなると考えられていましたが、今回のようにサプライチェーンが寸断されてしまうと前提が崩れてしまいます。

ユニーでも東海大地震の対策は講じていましたが、見直しを行いました。今までは避難場所は広い駐車場、としていましたが、名古屋大学の教授が発表した津波の予測データをもとに、高台の第 2 避難所の確保、状況に合わせたルー

ト確認などを店別にラインアップしました。訓練も行っています。今回の震災前から IT 部門も安否確認や被災情報を店舗から本部に上げる仕組みができていましたが、物流面でも被災地への援助物資の確保や輸送など細かく再検討しています。

注 1 : BCM (Business Continuity Management : 事業継続マネジメント) は、大規模な地震やテロ、疫病・感染症の蔓延、システム障害など、組織の存亡にかかわる脅威が万一発生した場合に、効率的に事業の継続性を確保する経営上の管理手法のこと。

BCP (Business Continuity Plan : 事業継続計画) は、BCM に基づいて立てる、企業が事業継続に取り組むうえで基本となる計画のこと。

一協会の流通 BMS プロジェクトでは現在どのような検討をなさっていますか。

**角田** 流通 BMS は商品マスタメッセージを含め、一通り B2B 分野の標準は揃いましたので、今年度は B2C であるネットスーパー用の画像の検討を行っています。ネットスーパーではウェブサイトの商品が掲載された瞬間、お客様に見える状態になりますので、従来と比べて求められる商品情報のレベルが異なります。特に商品画像は重要です。和日配や生鮮等はほとんど



画像がないですし、もし画像が間違っているとクレームにつながります。ネットスーパーを前提にした画像はまだ整備されておらず自社で撮影することも少なからずあります。

プロジェクトでは、画像データ授受の業務モデルの整理と、おおまかな画像スペックをきめることになっています。他の業界団体にヒアリングし、流通 BMS にどう反映するかはそのあとの課題になります。

プロジェクトは流通 BMS 協議会の受け皿という位置づけでもありますので情報交換の場としても活用し、いかに流通 BMS を普及拡大させるかを検討しています。

一御社の流通 BMS 取り組みについて教えてください。

**角田** 製・配・販連携協議会でも公表しましたが（注2）来月には150社くらいになります。説明会はメリットが出やすい大手と、まだ EDI を行っていない取引先の2つのパターンで開催してきましたが、この2つの中間に位置する多くの取引先については今年本格的に始める予定です。説明会では細かい内容の質問も出るので小規模で頻繁に行います。「やらされた感」を持たれるのはよくありませんので、丁寧に説明し、よくメリットをご理解いただいた上で、移行をお願いしています。

ユニーの社内システムは流通 BMS だけで動いていますが、委託先の EDI センターから取引先の間は JCA 手順、流通 BMS、Web-EDI など複数あります。東日本大震災や計画停電の影響を受けたのは JCA 手順でした。送信時間が短く、インターネット回線を使うので安定しているというメリットを生かした流通 BMS は災害・障害にも強いことが証明されたといえます。

しかし、まだ流通 BMS の本当のメリットが伝わっていないとも思います。EDI の置き換え

だと考えている向きがまだ多いようですが、流通 BMS は業務モデルの置き換えの基盤です。

流通 BMS の検討を始めたころ、商品マスタの同期化ができていることが前提だから、商品情報までメッセージに含める必要があるのだろうか？シンプルなメッセージにしよう、という意見もありました。それは特定のカテゴリでは可能かもしれませんが、十分条件にはなりません。まず商品マスタを登録し、確認し・・・という業務の流れはスピードが求められる現在のサイクルに適していません。通信速度が遅く、データ量が業務に影響した JCA 手順とは異なり、流通 BMS では速く安定したインターネット回線を使うのでデータ量が多くなってもメリットを享受できます。そのため流通 BMS メッセージには商品情報も多く含んでいます。JCA 手順をバッチ型とするなら流通 BMS はフロー型、トランザクション型、あるいはリアルタイム型とも言えます。

ユニーはスーパーマーケット事業と GMS 事業の両方を行っています。扱う商品の種類や売り上げ規模もかなり違いますので、店舗オペレーションは異なります。しかし、物流システムは1つで、異なる梱包ができるようになっています。これも流通 BMS が多くの項目を持ち、各現場で必要な項目を抽出できるようになっているからです。

流通 BMS の項目を物流部門の担当が見れば、業務改革につながると思います。これは企業規模の問題ではありません。3PL を利用した共同センターなどでも使えると思います。

注2：2011年5月の製配販フォーラムで49社が発表した「流通 BMS 導入宣言」のこと





一流通業の海外進出が活発化していますが御社はいかがですか。

**角田** 今年末に上海に出店する予定です。香港にはすでに3店舗あり、レジのオペレーションなどでは香港の経験が生きるでしょう。しかし、中国本土では制約事項も多く、事情の違いがあります。ただ本社、香港、上海を結ぶ専用線はできているので様々な社内のツールを提供することはできるようになっています。

課題はEDIです。香港もまだなので上海と併せて考えていきますが、問屋機能がないと言っていい状況ですので、日本の小売業が集まって標準化を進める、という段階ではありません。今後、店舗が増えればEDIが不可欠になってきますので物流にからめてEDIを整備していきます。

—最後に流通BMS協議会へのご要望がありましたらお願いします。

**角田** GMS・スーパー業界への普及は進んでいますので他の小売業態への普及に力を入れて欲しいです。食品卸はGMS・スーパーの割合が高いのですが、ドラッグストアなどにも普及すると、適用範囲が広がる卸売業が増え、効果が期待できます。流通BMSの活用は競争領域ではありませんので、セミナーなどによる事例紹介をもっと行ってはいかがでしょうか。

(聞き手：坂本尚登、まとめ：島崎綾子)

### 製・配・販連携協議会 消費財流通企業50社の「流通BMS導入・拡大計画」発表

(財)流通システム開発センターと(財)流通経済研究所が共同事務局を務める「製・配・販連携協議会」は、2011年5月19日に開催した「製・配・販連携フォーラム」にて発表した「流通BMS導入宣言書」に基づき、賛同企業各社の今後の具体的な取組方針をまとめた「流通BMS導入・拡大計画」を公表した。

「流通BMS導入・拡大計画」は、49社の賛同を得た「宣言書」に基づき、各社の具体的な導入・拡大計画を明らかにするため、とりまとめられた。5月以降、「宣言書」参加各社において検討が進められ、この度(株)ファミリーマートを加えた計50社で発表することになった。各社の発表内容詳細は、右記ホームページにて、掲載している。

小売業28社の拡大計画においては、2011年12月現在、流通BMSを導入した取引先数が累計約900件あるが、各社において順次流通BMSによる取引の拡大を行い、小売企業の取引先数の累計で2012年末に約6600件、2013年末に約7300件、2014年末までに約8700件の取引において流通BMSを導入する予定である。

「製・配・販連携協議会」では、「流通BMS協議会」と連携し、こうした各企業の導入・拡大計画を公表することにより、流通BMSの普及を推進していく予定である。

☆賛同企業の導入・拡大計画一覧URL  
<http://www.dsri.jp/forum/plan.html>

### (財)流通システム開発センター 前運営委員長の稲垣登志男氏を貢献者表彰

(財)流通システム開発センターでは1月12日に開催した新春懇親会で、流通BMS協議会の前運営委員長である稲垣登志男氏(現・エス・ビー・システムズ(株)常務取締役)を貢献者表彰した。この表彰制度は、同センターが行う流通システム化推進に多大な貢献があった個人や団体、企業を対象に感謝状と記念品を贈呈するもので、毎年1月に開催する新春懇親会の冒頭で行っている。今年は、稲垣氏を含む個人2名、企業2社が表彰された。

稲垣氏は前職の(株)菱食ITネットワーク本部時代、長年に亘って流開センターのEDI標準化委員を務められた。さらに2009年の流通BMS協議会発足後の2年間、運営委員長を務められ、会の運営に貢献されたほか、昨年度は普及推進部長も兼務されて普及推進にリーダーシップを発揮し

ていただいた。今年度は支援会員として、引き続き同部会に委員として参加いただいている。

また、2005年度の卸研の研究委員会座長として停滞気味であった同研究会の活動を活性化するとともに、その後も継続的に活動に参画、卸業界の情報化に貢献していただいた。



流開センターの井上会長を囲む受賞者の方々  
(左端が稲垣氏)

## 流通 BMS と商標登録

流通 BMS が普及し、その注目度が高まるにつれて、その文字やロゴマークを不適切に使用するケースも見られます。そこで、今回は流通 BMS と商標登録の関係についてご紹介します。

(財)流通システム開発センターでは、流通 BMS に関して「文字」と「図形」の両面で商標登録を行い、その権利を適切に行使することで標準仕様の適正な普及促進を図っています。

### ■文字商標

文字商標の登録は次の2種類です。

#### ①「流通ビジネスメッセージ標準」

登録番号：第 5247432 号

登録日：平成 21 年 7 月 10 日

指定分類：9 類、16 類、41 類、42 類

#### ②「流通 BMS」

登録番号：第 5247433 号

登録日：①と同じ

指定分類：①と同じ

文字商標の使用に当たっては、「流開センターの商標である旨を説明する但書を付ける」、「タイトルに使用する場合は文字商標の末尾に®を付けるよう努める」といったルールを定め、協議会のホームページを通じて公開しています。

### ■図形商標

図形商標（下図）の登録内容は下記です。

登録番号：第 5270226 号

登録日：平成 21 年 10 月 2 日

指定分類：文字商標と同じ



図形商標（ロゴマーク）は、流通 BMS の仕様に沿っていることを自己適合宣言した IT 関連製品・サービスなどに対して、その製品カタログなどへの使用許諾を与えることにより、流通 BMS の適切な利用促進と不適切な使用の抑制を図っています。（下図参照）

また、使用許諾された製品やサービスが検索できるシステムを提供することにより、ユーザ企業のシステム選択の便宜を図っています。（14 頁参照）

流通 BMS の文字やロゴマークの適切な使用により、標準ルールに沿った EDI システムが浸透するよう、ご協力をお願いします。

### 流通BMSロゴマーク 使用許諾制度

#### ■ 許諾の対象

流通BMS協議会の会員で

- 正会員(団体所属のユーザ企業を含む)が保有する流通BMSに関連するシステム
- 支援会員が販売、提供する流通BMSに関連する製品/サービス

#### ■ 許諾の条件

- 流通BMS協議会が定める技術仕様に適合していること
- 流通BMS協議会が定める使用規約を遵守すること

#### ■ 許諾の方法

- 申請者の製品やシステムが技術仕様に適合していることを申請者自らが確認し、(財)流通システム開発センターに対して「自己適合宣言」を行う。
- (財)流通システム開発センターは「自己適合宣言」を行った製品やシステムに流通BMSロゴマークの使用を許諾する。

#### ■ その他

使用許諾後に技術仕様への不適合やロゴマークの不正な使用、流通BMSの信用を毀損する行為などがあった場合、(財)流通システム開発センターは使用許諾を取り消すとともに、対象製品と取り消し事由をホームページで公開する。





オール日本スーパーマーケット協会  
 (財)家電製品協会  
 酒類加工食品企業間情報システム研究会 (F研)  
 情報志向型卸売業研究会 (卸研)  
 食肉流通標準化システム協議会  
 (財)食品産業センター  
 (財)食品流通構造改善促進機構  
 一般社団法人新日本スーパーマーケット協会  
 (財)生活用品振興センター  
 全国医薬品小売商業組合連合会  
 全国卸売酒販組合中央会  
 全国菓子卸商業組合連合会  
 全国化粧品日用品卸連合会  
 全国青果卸売協同組合連合会  
 (社)全国中央市場水産卸協会  
 (社)全国中央市場青果卸売協会  
 (社)全日本医薬品登録販売者協会  
 全日本菓子協会  
 全日本履物団体協議会  
 全日本婦人子供服工業組合連合会  
 (社)全日本文具協会  
 (社)大日本水産会  
 一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会  
 (社)日本医薬品卸業連合会 大衆薬卸協議会

(株)アール  
 (株)アイシーエス  
 (株)アイティフォー  
 (株)ITビジョナリー  
 (株)アイネス  
 (株)アイネット  
 (株)アグリコミュニケーションズ  
 アクロスソリューションズ(株)  
 (株)あじよ  
 (株)アスコット  
 (株)アットマーク  
 アトラスシステム(株)  
 (株)アルケミックス  
 (株)イークラフトマン  
 イーサポートリンク(株)  
 (株)イーネット  
 eBASE(株)  
 イー・マネージ・コンサルティング協同組合  
 (株)イシダ  
 伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
 (株)インターコム  
 (株)インタージ  
 (株)インテック  
 (株)インフォマート  
 (株)インフォメーションプロセッシングリサーチ  
 ヴィンキュラム ジャパン(株)  
 ウェブスペース(株)  
 (株)エイ・アイ・エス  
 (株)HBA  
 エス・エー・エス(株)  
 (株)エス・エフ・アイ

## 正会員 (2012年1月30日現在、48団体)

(社)日本衛生材料工業連合会  
 日本OTC医薬品協会  
 (社)日本加工食品卸協会  
 (社)日本玩具協会  
 日本化粧品工業連合会  
 日本GCI推進協議会  
 一般社団法人日本出版インフラセンター  
 日本スーパーマーケット協会  
 (社)日本スポーツ用品工業協会  
 日本生活協同組合連合会  
 日本石鹸洗剤工業会  
 (社)日本専門店協会  
 日本チェーンストア協会  
 日本チェーンドラッグストア協会  
 (社)日本ドウ・イット・ユアセルフ協会  
 日本歯磨工業会  
 日本ハム・ソーセージ工業協同組合  
 日本百貨店協会  
 (社)日本フードサービス協会  
 日本文紙事務器卸団体連合会  
 一般社団法人日本ボランティアチェーン協会  
 一般社団法人日本レコード協会  
 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会  
 協同組合 ハウネット

## 支援会員 (2012年1月30日現在、169社)

SCSK(株)  
 (株)SJC  
 (株)S-Parts  
 エス・ビー・システムズ(株)  
 NECエンベデッドプロダクツ(株)  
 (株)NEC情報システムズ  
 NECネクサソリューションズ(株)  
 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)  
 エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)  
 (株)NTTデータNCB  
 (株)NTTデータ スミス  
 大阪市中央卸売市場  
 大阪商工会議所  
 (株)大塚商会  
 (株)岡山情報処理センター  
 沖縄流通VAN(株)  
 オフィスフナヤマ  
 オリンパスシステムズ(株)  
 カストプラス(株)  
 (株)ガルフネット  
 キヤノンITソリューションズ(株)  
 (株)クライム  
 (株)ケイ・コム  
 けいしんシステムリサーチ(株)  
 K・ビジネスサポート(株)  
 (株)コスモコンピュータシステムズ  
 小林クリエイト(株)  
 (株)コムアソート  
 (株)サイバーリンクス  
 (株)さくらケーシーエス  
 (株)サトー



サンケーバイナリィ(株)  
 (株)サンレックス  
 (株)シイエスシイ  
 GMOグローバルサイン(株)  
 (株)ジェイ・エス・エス  
 (株)JSOL  
 JBアドバンスト・テクノロジー(株)  
 (株)システム・トラスト  
 (株)システムベース  
 (株)シスラボ  
 シャープシステムプロダクト(株)  
 (株)ジャパンインフォレックス  
 SOOP(株)  
 (株)スコープ  
 住友セメントシステム開発(株)  
 セイコープレジジョン(株)  
 (株)セゾン情報システムズ  
 創玄塾  
 大興電子通信(株)  
 (株)大洋システムテクノロジー  
 (株)タドラー  
 T I S(株)  
 (株)D T S  
 (株)T K C  
 (株)データ・アプリケーション  
 テクトランシステム  
 (株)テクノプレーン  
 (株)デジタルコンセプト  
 (株)デジタルデザイン  
 デジタルトランスコミュニケーションズ(株)  
 鉄道情報システム(株)  
 (株)寺岡システム  
 (株)寺岡精工  
 (株)TOKAI コミュニケーションズ  
 東芝情報機器(株)  
 東芝テック(株)  
 (株)トータルシステムデザイン  
 トップバン・フォームズ(株)  
 (株)トライ  
 (株)AAA システム  
 (株)トレンズ  
 西日本オフィスメーション(株)  
 日経メディアマーケティング(株)  
 (株)ニッセイコム  
 日本アイ・ビー・エム(株)  
 日本アドバンストリーダーズソフトウェア(株)  
 日本経済新聞社  
 日本事務器(株)  
 日本情報通信(株)  
 日本電気(株)  
 日本ヒューレット・パッカー(株)  
 日本ベリサイン(株)  
 日本ユニシス(株)  
 日本ラッド(株)  
 (株)ニュートラル  
 ネオアクシス(株)  
 (株)ネクステージコンサルティング  
 (株)ノーチラス・テクノロジーズ  
 (株)野村総合研究所

パナソニック システムネットワークス(株)  
 パワー・ワークス(株)  
 (株)日立システムズ  
 (株)日立製作所  
 日立ビジネスソリューション(株)  
 (株)ビット・エイ  
 (株)ひむか流通ネットワーク  
 (株)ファーストテクノロジー  
 (株)ファイネット  
 (株)フィンチジャパン  
 (株)フォーサイト  
 (株)福岡CSK  
 福岡流通VAN(株)  
 富士ゼロックス(株)  
 富士ソフト(株)  
 富士通(株)  
 富士通エフ・アイ・ピー(株)  
 (株)富士通システムソリューションズ  
 (株)富士通総研  
 (株)富士通中部システムズ  
 (株)富士通マーケティング  
 フューチャーアーキテクト(株)  
 (株)プラス  
 (株)プラネット  
 (株)フリーポート  
 (株)ハリオス  
 北陸コンピュータ・サービス(株)  
 ホンダロジコム(株)  
 ミツイワ(株)  
 三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)  
 三菱電機インフォメーションシステムズ(株)  
 (株)南日本情報処理センター  
 (株)Minor iソリューションズ  
 (株)ミンクス  
 メルシーネット(株)  
 ユーザックシステム(株)  
 (株)U-Think  
 (株)ユニックス  
 ユニバーサルフード(株)  
 (株)ライドウェーブコンサルティング  
 ライトシステムコンサルタント(株)  
 (株)ラック  
 (株)リウコム  
 (株)リテイルコム  
 (株)リテイルサイエンス  
 (株)リンネット  
 ロジ共働促進(株)  
 (株)ワイ・ディ・シー

※新規支援会員：2社（(株)AAA システム、(株)イークラフトマン）

## 流通 BMS 導入(予定)企業



流通 BMS 協議会では正会員、支援会員の協力を得るなどして、流通 BMS 導入済/予定企業を独自に把握し、それぞれの企業に社名開示の承認を得て公開しています。2012年1月1日現在の状況は下記のとおりです。

### 小売業

業態	済	予定	小計
スーパー	71	14	85
百貨店	3	7	10
ドラッグストア	3	4	7
ホームセンター	4	0	4
生協事業連合	3	0	3
合計	84	25	109

具体的な企業名は下記サイトをご覧ください。

[www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/info06.html](http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/info06.html)

### 卸売業・メーカー

業種	済	予定	小計
食品・飲料卸	47	0	47
菓子卸	16	4	20
日用品・化粧品 卸・メーカー	17	3	20
医薬品 卸・メーカー	4	2	6
アパレル・靴・スポーツ用品 卸・メーカー	20	8	28
食品メーカー	20	2	22
家庭用品 卸・メーカー	5	2	7
包材資材 卸・メーカー	4	6	10
玩具・ホビー 卸・メーカー	3	0	3
家電 卸・メーカー	1	0	1
その他 卸・メーカー	1	0	1
合計	138	27	165

(注) 上表の企業数は、社名公開企業の数であり、導入企業の数ではありません。

実際に流通 BMS を導入している、または導入を予定している企業数の一部です。

## ロゴマーク使用許諾製品



流通 BMS 協議会では流通 BMS の標準仕様  
に準拠した製品やサービスに対して、流通 BMS  
のロゴマークの使用を許諾しております。

2012年1月30日現在の状況は下記のとおり  
です。

許諾総数：77 製品・サービス  
(提供企業数44社)

(77 製品・サービスの内訳)

- EDI (通信+XML) 製品：38
- サービス (ASP/SaaS)：30
- 通信基盤：4
- 認証サービス：3
- 物流ラベル作成ソフト：2

### 検索サービスの提供

上記の製品・サービスの詳細は下記サイトから  
検索することができます。

[www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/detail.html](http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/detail.html)

みんなつながる  
**流通BMS** 流通BMS ロゴマーク使用許諾製品  
検索システム

導入対象

詳細条件を指定してください。

導入形態  必須  自社導入  ASP/SaaS

通信手順  ebMS  AS2  JX手順(サーバ)  JX手順(クライアント)

流通BMSバージョン  基本形Ver1.0  基本形Ver1.1  基本形Ver1.2  基本形Ver1.3  
 生輝版(暫定)Ver1.0  生輝版(暫定)Ver1.2  
 百貨店版Ver1.0  百貨店版Ver2.0  百貨店版Ver2.1





流通 EDI 入門講座の今後の開催予定をご紹介します。

## 流通 EDI 入門講座

開催日時	2012年2月14日(火) 13:30~16:30/受付開始:13:00~
会場	AP 大阪 (大阪市中央区北浜 3-2-25 京阪淀屋橋ビル 4F)
内容	流通業界の特徴と流通 EDI の歴史と現状、流通 BMS の概要などを説明します。
対象者	これから流通業のシステムを担当する皆様 小売業、卸売業、商品メーカー、システムベンダーなど
プログラム	第1部: 流通の基礎知識 業種と業態、商流、物流、流通サプライチェーンなど 第2部: 流通システム標準の歴史 データ交換、標準識別コード、メーカー・卸の現状など 第3部: 流通 BMS 策定の背景 流通 BMS とは、最新状況、標準維持の重要性など

※参加費は無料です

**申込み方法** ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/edi.html>

## 流通 BMS 講座



流通 BMS 講座の今後の開催予定をご紹介します。

### 流通 BMS 講座 (システム設計編)

開催日時	2012年2月22日(水) 13:00~17:30/受付開始:12:30~
会場	(財)流通システム開発センター 2階 会議室 (東京都港区赤坂 7-3-37 プラス・カナダ 2F)
内容	流通 BMS の導入、環境設定を自ら行う方に演習・理解度確認を通して実践的に説明します。マッピングシートと通信パラメータ協定シートを使用し、演習を行います。
対象者	流通 BMS を導入されるユーザー企業のシステム部門のご担当者、流通 BMS 対応のシステム構築を請け負う SI 企業 等
プログラム	第1部: 流通 BMS システム構築 取引先間関連事項調整、相互接続テスト、稼働後の留意点 第2部: マッピングシート演習、通信パラメータ協定シート演習
使用するテキスト	流通 BMS システム設計ガイドライン

※参加費は 3,150 円 (テキスト代) 申し受けます。事前振込制です。

**申込み方法** ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/event01.html>



流通システム開発センターが主催している EDI 以外の入門講座をご紹介します。

## バーコード入門講座

第1部 JANコード・集合包装用商品コード・GTINの基礎	
13:30~15:00	(1) JANコード：コード体系、利用方法、JANシンボルなど (2) 集合包装用商品コード：コード体系、利用方法、ITFシンボルなど (3) GTIN (Global Trade Item Number) とは (4) その他関連事項
第2部 GS1-128 GS1 データバー・電子タグ(EPC global)の基礎	
15:10~16:30	(1) GS1-128 コード体系、利用方法、業界動向など (2) GS1 データバー：シンボルの種類、利用方法、今後の動向など (3) 電子タグと EPC：電子タグとは、電子タグの特徴、電子タグの国際標準コードである EPC の基礎

### 開催日・場所

東京会場：2012年2月16日(木)、2012年3月15日(木)

(財)流通システム開発センター2F 会議室

東京都港区赤坂 7-3-37 プラースカナダ 2F TEL: 03-5414-8515

大阪会場：2012年2月14日(火)

大阪商工会議所 4階または5階会議室

大阪市中央区本町橋 2-8 TEL: 06-6944-6268

申込み方法 ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申し込みください。

<http://www.dsri.jp/semsal/seminar/barcode.htm>

## 電子タグ入門講座

### プログラム

- |  |
|--|
| (1) 電子タグとは<br>(2) 電子タグの活用シーンと導入事例<br>(3) EPCglobal 標準の紹介<br>(4) 電子タグシステムの導入に向けて( |
|--|

(財)流通システム開発センター2F 会議室

東京都港区赤坂 7-3-37 プラースカナダ 2F

TEL: 03-5414-8515

申込み方法 ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申し込みください。

[www.dsri.jp/semsal/seminar/epc\\_seminar.htm](http://www.dsri.jp/semsal/seminar/epc_seminar.htm)

### 開催日時・場所

2012年2月29日(水) 14:00~17:00



◇前号の編集後記でも取り上げましたが、流通4団体による流通 BMS の共同利用インフラ「スマクラ」の全国説明会が、1月25日の東京会場を皮切りに始まりました。

4団体がこの取り組みを開始した理由は「流通 BMS の普及推進を行うためには、国内スーパーマーケットが真剣に取り組まないと、実際の普及は進まない」という強い意志であり、また、取引先からも次の要望が出ていることを背景として上げています。

- GMS や大手 SM では導入が必須となりつつあり、二重のシステムを持ち続けるのは逆にコスト増。流通 BMS で受け取れるよう準備してほしい。
- 各種アンケートの結果では、卸・メーカー側では流通 BMS の導入は小売側の要望があれば対応するとの回答多数。
- 小売毎の個別のルールに基づく受発注はシステム維持管理にかかる工数が大きく、廃止してほしい。（再構築時に影響大）
- JCA 手順モデムの保守に関して不安がある。
- 受信時間を短くしたい。

8月まで毎月1都市の開催が予定されており、その成果に注目したいものです。

◇3月15日に導入事例セミナーを開催します。

当協議会としても、今年度は小売業の取引先説明会支援に力を入れたこともあって、11月のフォーラムを除くと本格的な普及セミナーを開催しておりませんでした。導入事例紹介を求める声が

多いのにお応えして、3月15日に東京で小売2社、卸2社の事例紹介を行います。（4頁参照）

◇その1週間前にリテールテックジャパン2012が開催されますが、3月8日に当センターが協力して開催する「流通システム標準化の最新動向」の午前に、協議会支援会員4社による導入事例紹介を行います。こちらも無料セミナーですので、ふるってご参加ください。

◇毎月初に更新している「流通 BMS 導入企業名公開」は、実際の導入済/予定企業の中から公開の了解を得られた企業の社名を紹介しているもので、実際の導入数はこれよりも多いにも関わらず、公開企業数を導入企業数として過少に紹介されるケースが後を絶ちません。

そこでその開きが大きい卸・メーカーの導入数を調査し、2月中旬に発表する予定です。その数は数千にのぼると推測されます。ご期待ください。

◇今、十年ぶりと言われる寒波が到来していますが、先日、ある小売業の物流センター（埼玉）を見学してそれを実感しました。暖房なしの庫内は厚手のコートを着ていても寒いくらいで、そのような過酷な条件下で日々物の移動に携わる方々を目の当たりにすると、EDI がスムーズに動くことで作業時間が短縮されることは労働条件の改善につながることを改めて実感した次第です。

「三寒の 後の四温が 待ち遠しい」

(尚)

発行 : 2012年1月31日  
 発行人 : 流通システム標準普及推進協議会  
 (流通 BMS 協議会)  
 住所 : 〒107-0052  
 東京都港区赤坂 7-3-37  
 プラス・カナダ 3階  
 (財)流通システム開発センター内  
 Tel : 03-5414-8505  
 Fax : 03-5414-8513  
 E-mail : ryutsu-bms@dsri.jp  
 URL : www.dsri.jp/ryutsu-bms

